

長門の話題

Topics



陸上教室 in 仙崎

長門市から一流選手を

10月4日(日)、箱根駅伝経験者などが指導する「陸上教室 in 仙崎」が仙崎小学校グラウンドで開催されました。

この陸上教室は、子どもたちに実業団選手と触れあう機会をつくることで、将来オリンピックや大学駅伝などの高い目標をもってもらうことを目的に開催されるもので、中

国電力の選手3人と1人のコーチが仙崎を中心とする小学生児童58人の指導にあたりました。

教室が始まり、参加者たちは準備運動の後、2チームに分かれ、片方のチームがもう一方のチームを追いかけるゲームや10人組でのリレーなどを行いました。

令和2年度交通安全表彰

今後も模範的な運転を

9月24日(木)、長門警察署で令和2年度交通安全表彰が行われました。

今年には交通安全の集いなどが中止となり、表彰のみ実施されました。安全表彰は個人・団体の計10人で、併せて交通安全スローガンの最優秀作品に輝いた小学生3人に賞状などが贈られました。



▲河本京子さんが県表彰を受賞



▲一流選手の走り学ぶ



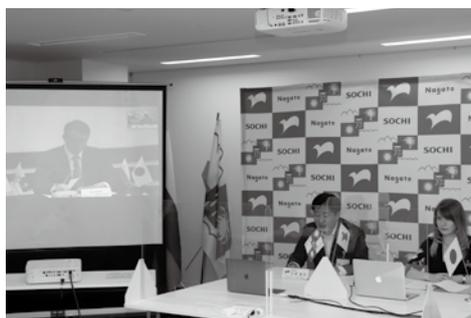
▲ゲーム形式で楽しみながら体を動かした

オンライン会談を実施

姉妹都市協定締結2周年を記念して

9月29日(火)、ロシアのソチ市と長門市の姉妹都市協定締結2周年を記念した、両市長によるオンライン会談が行われました。

江原市長が、来年秋の長門市への訪問を要請すると、コパイゴロツキー市長は快諾しました。両市は、今後も観光や教育、スポーツなどの分野で交流していく予定です。



▲強力な関係を続けたいと話す江原市長

第68回長門大津駅伝大会

一本のたすきをつなぐ

10月17日(土)、第68回長門大津駅伝大会が開催され、三隅中学校からラポールゆやまで20.8kmを駆け抜けました。

今年、中学生の部に10チーム、高校・一般の部4チームの合計14チームが参加。開会式では、油谷チームの上野恭平さんが選手宣誓を行う

と、10時20分に選手らは勢よく三隅中学校前をスタート。沿道の声援を受けながらラポールゆやまでたすきをつなぎ、駆け抜けました。

中学校の部は「深川中学校A」が、高校・一般の部では「油谷チーム」が優勝を果たしました。

ながと鉄道まつり 「特トワ」がお目見え

10月11日(日)、西日本旅客鉄道株式会社長門鉄道部運転支所内で「ながと鉄道まつり」が開催されました。

今年、「特別なトワイライトエクスプレス」として下関から京都・大阪間を走行した下関総合車両所所属のEF65形電気機関車が特別に展示さ

れました。

たいへん珍しい展示となったことから多くの鉄道ファンが詰めかけました。会場では、軌道自動自転車の乗車体験など鉄道にまつわる体験コーナーが設置され、たくさん家族連れが楽しんでいました。



▲当時のトワイライトエクスプレスのヘッドマークを装着



▲スタートの号砲とともに力走する選手たち

長門市駅北・南地区活性化につながる事業

まちなかの賑わいの拠点に

10月2日(金)、長門市駅北・南地区活性化につながる事業として賑わいの拠点「Meginaka Station Challo(まちなかステーションチャロ)」がオープンし、内覧会が開催されました。

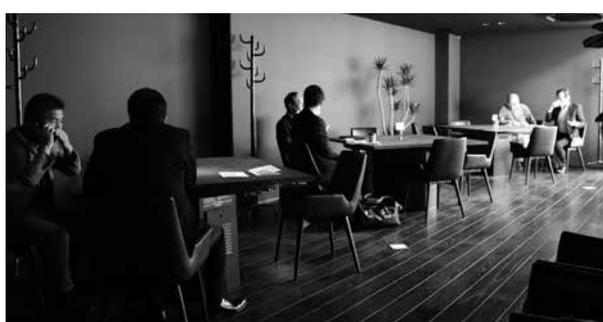
Challo(チャロ)は、長門商工会議所の主催で長門市駅北の旧飲食店施設を改装したもので、期間限定のお店を開

くことができるポップアップショップや新商品のテストマーケティングなどに利用できるフリースペース、IT支援拠点として専門家による経営相談に応じるスペースなどが整備されています。

たくさんの人に利用してもらうことで、まちのたまり場、つながりの場としての活用が期待されています。



▲賑わう拠点として毎月イベントと連携したながと PR 動画を作成



▲試食会やイベントに活用できる1階のフリースペース

届けよう！わたしたちの思いを

10月14日(水)、国指定重要有形民俗文化財である赤崎神社 楽棧敷で棧敷集会が行われました。

活かし、音響を考えて作られた楽棧敷にふれることで、先人の思いや野外劇場の素晴らしさを体感することを目的に開催されています。

棧敷集会は、歌を歌ったり、自分たちの思いを表現するなかで、お互いの表現の良さに気付くことができるようにすることや自然の傾斜を巧みに

学年ごとに歌や楽器演奏、手話などを披露し、感謝の気持ちや目標などの思いが伝わるよう表現していました。

クジラづくしの愛夫弁当

感謝の気持ちをかたちに

10月6日(火)、油谷健康福祉センターで鯨づくしの愛夫弁当づくりが行われました。

10月は男女共同参画推進月間ということもあり、料理グループ「油谷なでしこ」の指導のもと、「男子厨房に入る会」が日ごろの感謝の気持ちを伝えるため、愛妻弁当ならぬ愛夫弁当を作りました。

食材は、長門大津くじら食文化を継承する会が鯨食の普及を目的に鯨肉を提供して行われ、鯨汁などの鯨づくしメニューを調理しました。愛夫弁当は、2時間ほどで60個が完成し、それぞれが家庭に持ち帰りました。



▲普段から調理活動をしているとあって手際よく盛り付け



▲深川小学校の501人の児童が参加



▲ルネッサながと駐車場から打ち上げられた花火



▲約1時間30分の映画を楽しむ

コロナ禍の夏でも楽しい思い出を

9月20日(日)、ルネッサながと駐車場で長門ライオンズシネマが開催されました。

長門ライオンズシネマはドライブインシアター形式で映画を鑑賞するイベントで、長門市では初めての催しとあって、車130台、約500人が集まりました。

映画上映前には、約75発の

花火が打ち上げられ、来場者は歓声をあげていました。

その後に映画が上映され、ルネッサながと体育館の壁に映像が映し出されました。

来場者の一人は「子どもが映画を観たいと言ったので、家族全員で来ましたが、貴重な経験となりました」と感想を語りました。

人がつながり、仙崎通りに活気を

福永 篤史さん (仙崎通り町協議会)

10月19日(月)に設立された仙崎通り町協議会の副会長に就任した福永篤史さん。

同協議会は、仙崎駅から北へ延びるみずゞ通りを中心に、地域住民が主役となった空き家・空き店舗の活用、通りのにぎわい創出、伝統文化の継承の仕組みづくりを目的としています。

福永さんは、高校を卒業後、専門学校や舞台衣装の仕事で東京に10年間ほど暮らした後、家族と一緒に長門市にUターン。

その後、仙崎青年会の活動を通して協議会に加わりました。

福永さんは「これからの将来を担う若年層に情報を発信していきたい。そして、イベントなどを通じて、多くの人に仙崎に足を運んでもらい、仙崎通りを活気づかせていければ」と意気込みを語りました。

11月22日(日)には新たな拠点となる施設を利用した第一弾イベントが企画されています(22ページに情報を掲載)。



◀仙崎通り町協議会の Instagram

旬な人



▲設立総会には52人が出席し、仙崎の未来を考えた

日置小学校で稲刈りを体験
黄金色に輝く稲を刈り取る

10月5日(月)、日置小学校で稲刈りが行われました。

稲刈りを体験したのは、日置小学校の4・5年生児童約40人。春に苗を植えた田には、「きぬむすめ」の穂が黄金色に実っており、児童らは3グループに分かれた後、地域住民や保護者らと協力して稲刈りを開始。刈り取った稲は、7株程度で束にして「なだら」にかけていき、2時間もかか

らずに作業は終了しました。稲は、天日で乾燥した後、脱穀・精米し、5年生が今後の活用方法を模索することです。

稲刈りを体験した児童は「稲刈りはやったことがなくてすごく楽しかった」「みんなで協力して早く稲を刈ることができてよかった」などと嬉しそうに感想を語りました。



▲自分たちが育てた米の収穫に子どもたちは大喜び



▲1株ごとに丁寧に刈り取る